

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4076100181
法人名	有限会社 芙美
事業所名	グループホーム ふみの里
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市阿恵365-7 (電 話) 0948-72-3500

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 12月 11日	評価確定日	平成 21年 2月 12日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算	10.0人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	○有(50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成 年 月 日現在)

利用者人数	12 名	男性	2 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低 57 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永芳医院 大塚歯科 大塚眼科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地の中にあり、道路を隔てたホームの向かいには昔からの地域の病院(ホームの提携医療機関)があり、徒歩数分の範囲の中に駅やスーパーがある町の中心部に建っている。開設してから5年目に入り、地域の方が野菜の差し入れを持ってホームに来られたり、ホームの行事に地域の方も参加される等、ホームは地域の中に違和感なく溶け込んでおり、地域の生活に根ざしたホームとなっている。前施設長が“ふれあい・みつめあい・ささえあい・時の流れに逆らわず心のこもった見守り”という理念を掲げ、平成16年に“グループホームふみの里”を開設した。平成19年12月に施設長(前施設長の娘氏へ)の交代があったが、ホームの方針に変わりはなく「地域とのふれあいの輪を広げていきたい」と施設長を始め職員一同の思いのもと、ご利用者と職員で地域の行事に参加したり、運営推進会議を通して地域の方へホームの様子を伝えホームの行事に地域の方を招待する等、出来ることから地域への働きかけに取り組みされている。今年に入り、ご利用者全員で県外へ一泊旅行を実現したり、外部機関を利用してのホーム全体の評価や個々の職員の評価を始める等の新しい取り組みを始められており、今後の取り組みが楽しみなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果を踏まえて「改善計画書」を作成し、具体的な取り組みの内容として①地域の消防団などの地域の協力を得ながらの消防・避難訓練を実施し、施設内の廊下に避難経路図を設置した。②運営推進会議の中で積極的な意見交換が行われるように、会議の議題や内容を工夫し、参加者からホーム運営について具体的な提案がいただけるようになった。③全てのご利用者の介護計画の見直しを毎月実施し、状況の変化に応じ、計画の変更が行われるようにした。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長や管理者は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを伝え、職員全員がそれぞれに自己評価に取り組み、施設長と管理者でまとめ上げた。前回の評価については、施設長・管理者で改善計画書を作成し、改善に取り組んだ。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご利用者・ご家族・自治会長・市担当者に参加していただき、2ヶ月に1回開催している。会議の中では、ホームの状況報告や防災への取り組みについての検討等を行い、ホーム運営の改善について具体的な提案を受けながら話し合い取り組んできた。会議の中では、参加者から夜間の災害を想定した避難訓練の必要性を助言頂く等、ホーム運営について具体的な意見を頂いており、ホーム運営の改善に反映している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>月に1回のご家族訪問時に、ご利用者の介護記録をお見せしながらご家族へ報告し、ご家族の訪問がない時は電話連絡で日々のご様子や健康状態等をお伝えしている。また、ホームのホームページの中で、ご家族限定でご利用者の写真が閲覧できるようにしており、ご利用者の状態によっては職員からの報告の頻度を増やすようにしている。日頃からホーム運営やご利用者のケアについて、ご家族から意見が頂けるように働きかけており、運営推進会議や家族会の中で意見を頂くこともある。ご家族から意見を頂いた時は、連絡ノートに記入し職員全員で共有を図り検討することで、運営に反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご利用者と職員が地域の敬老会や夏祭り・盆踊り等の行事へ参加することが定着し、管理者から自治会長へご利用者と職員の地域の清掃活動への参加を提案する等、地域活動への積極的な働きかけに取り組まれている。地域の住民からホームへ野菜の差し入れを頂いたり、エプロンシアター発表会等のホームの行事に地域の住民も参加される等、日常的に地域との交流が行われている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年のグループホーム開設時に“ふれあい・みつめあい・ささえあい・時の流れに逆らわず心のこもった見守りを”という言葉を当時の施設長と職員とが一緒に考えて、理念として掲げた。地域に根ざしたサービスといった内容は理念の文言の中には明示されていないが、“地域とのふれあいの輪を広げていきたい”という思いを込めて設立時より取り組みが続けられており、ホーム内の掲示物やご利用者の活動の中で実際に確認でき、理念に通じている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念の唱和を行うことで毎日確認し合い、日々理念が実践できるよう取り組んでいる。月2回のミーティングで施設長がホームの理念について話す時間をもち、職員同士でご利用者・ご家族・地域の方々との関わりについて話し合う時間を設けている。職員の言動等、日々のケアの中での気付きは施設長や管理者が直接職員へ伝えるようにしており、職員全員がご利用者の声を聞き逃すことなく、ご本人の思いを大切にしたいケアが実践できるように働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域の自治会に加入しており、ご利用者と職員で地域の敬老会や夏祭り・盆踊り等に参加している。また、まだ実現はしていないが、管理者から自治会長へご利用者と職員の地域の清掃活動への参加を提案する等、地域活動へ積極的な働きかけに取り組まれている。地域の住民からホームへ野菜の差し入れを頂いたり、エプロンシアター発表会等のホームの行事に地域の住民も参加される等、日常的に地域との交流が行われている。	○	施設長には、今後は地域の行事への招待を受けるだけでなく、ご利用者が行事の中で出し物を発表する機会を設ける等、より積極的な活動へ繋げていきたいとの思いがあり、今後の取り組みを考えている。また、ご利用者と職員での地域の清掃活動への参加を実現したいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを伝え、職員全員がそれぞれに自己評価に取り組み、施設長と管理者でまとめ上げた。職員全員で自己評価を行うことで、これまで漠然と行っていたケアの裏づけを行うことができた。前回の評価については、施設長・管理者で改善計画書を作成し、改善に取り組んだ。	○	前回の評価については施設長・管理者で改善計画書を作成し、職員には結果を報告するのみであった。今後は職員全員で改善政策に取り組まれるよう、今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行っており、ご利用者・ご家族・自治会長・市担当者に参加して頂いている。会議の中では、ホームの活動報告やホームの防災についての検討、ご家族からのホームへのご意見を受け話し合いを行う等、ホーム運営の改善に取り組んできた。会議の中で、夜間災害時の避難体制について助言を頂く等、参加者から具体的な意見や助言を頂き、ホーム運営の改善に反映している。また、会議の中で、参加者にホームの行事のお知らせを、地域の方々に回覧板で回して頂く等の協力を頂いている。	○	現在、会議は年間を通して同じメンバーが参加しており、会議の結果のご家族への報告は行っていない。今後は必要に応じて定期的な参加者の交代や追加を行ったり、検討する内容に応じて地域の住民の参加を柔軟に受け入れを行う事で、より多くの方からの意見が取り入れられる運営推進会議に行きたいと施設長は考えている。また、ご家族へ会議の内容をホームページを利用して報告が行えるように、準備に取り組んでいる状況。今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、運営推進会議以外にも1ヶ月に1、2回は市の窓口を訪問し、担当者にホームの運営や福祉制度の手続きでわからないことは相談を行っている。また、高齢者の人権について等、市の担当者に研修の講師として職員研修に参加して頂く等、ホーム運営への積極的な協力を頂いており、良好な連携体制が保たれている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の担当職員を講師に招き、職員研修で説明を行って頂いたり、外部の研修を受講した職員が内部研修を通して、職員全員に説明を行うことで周知を図っている。必要と思われるご利用者については説明を行ったが、全ご利用者・ご家族に対する説明は実施できていない。	○	引き続き職員研修を行い、ホームに備え付けのパンフレットを準備したり、家族会でご利用者・ご家族へ説明を行い周知を図る等、職員・ご利用者・ご家族ともにより理解が深められるよう、今後の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ご家族訪問時に、ご利用者の生活状況・健康状態などを介護記録をお見せしながらご家族へ報告している。ご家族の訪問がない時は、月に1回、職員から電話連絡を行い日々のご様子や健康状態等をお伝えしている。ご利用者の状態によっては報告の頻度を増やし、日々のケアについてご家族からも意見が頂けるように働きかけている。また、ホームのホームページの中で、ご家族限定でご利用者の写真が閲覧できるようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関横に公的な相談窓口のポスターを掲示し、意見箱を設置することで、ご家族が意見を伝えやすい環境が保たれている。施設長・管理者や職員は、ご家族の訪問時や電話連絡の時に、ホームやご利用者のケアについて希望や意見はないか聞くようにしている。運営推進会議や家族会の中で、ご家族から意見を頂くこともある。ご家族から意見を頂いた時は、連絡ノートに記入し職員全員で共有を図り検討することで、運営に反映させている。	○	2008年1月に第1回の家族会が行われ、今後も堅苦しくなく、何でも言いやすい関係作りに取り組んでいきたいと施設長は考えられている。更なる取り組みに期待していきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は、職員の休みの希望を聞いて調整を行ったり、夜勤専門の非常勤職員や日中に清掃・調理専門の職員をそれぞれ配置することで、それぞれの職員が担当業務に集中でき仕事を続けやすい環境が保たれるように努めている。施設長と管理者が職員の相談窓口となって、職員の日頃の小さな悩みにも個別に対応し助言を行っている。職員の交代後は、新規職員への情報提供・指導を充分に行い、ご利用者へのダメージを防ぐための体制作りも整っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長は、職員の採用にあたり性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはなく、施設長と管理者で面接し採用を行っている。経験や資格のない方でも、ケアに対する想いが同じ方であれば、採用している。ホーム運営の中で個々の職員の個性を尊重しながら、レクリエーション活動が得意な職員にはホームのレク活動に新しいアイデアを出してもらったり、習字が得意な職員にはホームの掲示物を書いてもらう等、個々の職員のを發揮してもらっている。また、職員の資格取得の為に勤務の調整を行う等の配慮も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は“ご利用者お一人お一人がご家族にとってかけがえのない人”であり、ご利用者と触れ合いご利用者の思いを知ることの大切さを職員へ伝えている。施設長や管理者が、日々のケアの中で職員の言動から気付いたことを直接職員に伝えることで、親しみから馴れ合いによる、職員の言葉遣いが乱れることに繋がらないよう働きかけている。月2回のミーティング時に理念と合わせて、ご利用者の人権について施設長が話しを行い、職員同士で考える時間を設けている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回のミーティング時に職員研修を行っており、職員が外部研修に参加した時は伝達研修を行っている。施設長は、職員同士での内部研修だけでは得られる知識に限りがあると考えており、今年から外部講師を招いての研修を始めた。また、今年から定期的に職員が自身の業務について自己評価を行う取り組みを始めた。外部機関に施設長・管理者の他者評価と合わせて分析を依頼し、結果を施設長から職員へ伝えることで職員の自己研鑽に繋げる取り組みを行っている。	○	職員個別の育成計画の作成には至っていない状況。施設長は、今後は各職員の立場・経験・習熟度に応じて力をつけていけるよう、個別の育成計画を作成し外部研修の予定を把握することで、外部研修への参加にも積極的に取り組みたいと考えている。各職員に目標シートが配布されており、各職員の学習意向の把握に取り組まれている。今後の取り組みに期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加盟しており、施設長や管理者は協議会の勉強会へ参加し、他施設の職員との交流を図ったり情報交換を行っている。管理者間での施設の交流会へ参加したり、地域のグループホームへの相互訪問は行っているが、職員を主とした交流は行っておらず、施設長は十分な交流が出来ているとは考えていない。	○	施設長は、今後は職員間での地域のグループホームとの交流や相互訪問・見学等を行いたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族にホームの雰囲気を理解して頂き、ご本人が納得した上で入居に繋がられるように、ご本人とご家族に一度ホームへ訪問いただきながら入居の相談を受けるようにしている。相談を受けた後も、入居前にホームに来てもらったり体験入居を行うことで、ご本人に徐々にホームの雰囲気へ慣れて頂けるよう工夫している。入居後は、レク活動等を通してご利用者の希望を聞いたり、ご利用者の好きなことや得意なことを見出し活動に取り入れることで、ご利用者がホームの生活に徐々に馴染めるように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から戦後の生活の知恵やらつきょうの漬け方を習う等、日々の活動の中でそれぞれのご利用者の得意分野でその力を発揮して頂く機会を作るようにしている。ほとんど話しをされないご利用者に、あきらめずに声かけを続けた結果、“ありがとう”という言葉をいただき、涙が出るほど感動したこともあった。職員もわからないことはご利用者に尋ねることもあり、日常生活の中でご利用者から学びを頂くことが多い。お互いに思いやり支えあう関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご利用者とご家族からどのようにホームで暮らしていきたいか希望や意向を聞き取り、入居後もご利用者とご家族からの聞き取りを続けている。日々の活動を通して、ご利用者の希望に沿った支援が出来るか確認を行っており、言葉での表現が難しい方には、レク活動中の表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力を行い、ご家族に尋ねながらご家族と一緒に考えていく取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を使い、月に1回計画の検討が行われ、計画変更が必要な時はご利用者が参加する会議を開きご利用者の意向を確認し、ご利用者・ご家族の意向を組み入れた計画を計画作成担当者が作成している。計画は、ご利用者・ご家族の意向を組み入れたものになっているが、課題・目標には地域で暮らす視点が盛り込まれておらず、また日々職員が行っているケアの全てが反映されたものにはなっていない。	○	課題・目標に「地域で暮らす」という視点が盛り込まれ、日頃実際に行っているケアの内容をすべてプランに明示することで、より充実したケアの提供が出来ると考えられる。今後の取り組みに期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回、計画を検討する会議を開催しており、全ご利用者のプランの見直しを職員全員で行い、必要時は計画の変更を行っている。日々のケアの中で、ご利用者のご様子やご利用者から希望がないかを観察し、ご家族に報告・提案しながら、随時その時のご利用者の状態に応じた計画の変更に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に1回、協力医療機関による往診や提携機関の歯科医師による口腔ケアの提供が行われており、ご利用者の体調変化に応じては協力医療機関による夜間往診の対応も可能な体制が整えられている。また、週に2回、鍼灸師会から鍼灸師の訪問を受けており、ご利用者へのマッサージやリハビリの提供が行われている。ご利用者の希望に応じて、ご利用者が以前暮らしていた地区への外出に職員が同行し介助を行う等、ご利用者個別の希望への柔軟な対応も行っている。	○	施設長は、今後ご利用者の認知症の進行に応じて専門医との連携を図っていきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族に主治医をお選びいただけることを説明しているが、殆どのご利用者がホームの協力医療機関へ主治医を変更されている。受診時には職員が受診に同行し医師への報告を行い、体調の変容があった時は職員から協力医療機関の医師や主治医へ電話で相談し指示を頂く等、疾患の早期発見・早期治療に繋がるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にはご利用者・ご家族への終末期の意向の確認は行っていないが、ご利用者の状態に応じ個別に確認する機会を設け、ご利用者・ご家族に方向性を選んでいただく取り組みを続けている。一昨年前に一度ホームでの看取りを経験したが、今後の看取りへの取り組みについては全てのご利用者・ご家族の意向を再度確認し、個々のご利用者とはホームで方針の統一と共有を図りたいと施設長は考えている。	○	今後の看取りへの取り組みについて、全ご利用者の意向を把握すると共にホームの方針をお伝えすることで、ご利用者・ご家族の将来への不安軽減にもつながるものと考えられる。更なる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者をお呼びする時は、ご利用者とご家族に確認し、姓でお呼びし、姓でお呼びしても反応されない方には、ご家族等へ事前に了解を頂き、名前や馴染みの呼び方で対応している。日々のケアの中でもご利用者の気持ちに沿いながら、個々のプライバシーや自尊心を損ねないようさりげなく声かけを行うようにしている。ホームのリビングでスタッフ間の申し送りを行う時は、ご利用者名を出さずインシヤルで伝えるようにする等、個人情報の管理には十分気を付けている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・起床時間など1人ひとりのペースに合わせ対応している。毎日ご利用者のその日の気分を確認し、一日をどのように過ごすかをご利用者に決めて頂いている。ケアピクス等ご利用者全員で活動に取り組む時間を設けているが、ご利用者の気分が乗らない時には無理強いをしていない。外出やレクリエーション活動への参加が難しいご利用者には、ホーム内での活動に職員と取り組むことで、日々楽しみのある生活となるように支援している。	○	職員の急な休みがあった時には、ご利用者のペースに合わせたケアができずに手を出してしまうことがあると職員より話があった。今後は業務の中で優先順位を明確にする検討を行われる事で、職員体制に左右されずご利用者のペースに合わせたケアが継続できるよう、今後の取り組みに期待したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好・希望や栄養面を考慮し、調理担当の職員が献立を立てている。ご利用者の嫌いな食材がある時は形態を変えて提供したり、個々のご利用者の誕生日には献立の希望を聞き対応している。献立に旬の食材や菜園で採れたミニトマト・きゅうり・ほうれんそうを食事に取入れたり、ご利用者と職員と一緒に漬けたらっきょうを食卓に出す等の取り組みも行っている。ご利用者は、体調や能力に応じて調理の下ごしらえやテーブル拭き・盛り付け・下膳等、出来ることに取り組んでいる。	○	施設長は、今後屋外でバーベキューを実施したいと考えており、今後の食の楽しみの充実に向けての取り組みに期待したい。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の午後に入浴を行っているが、希望があれば入浴日以外の入浴に対応したり、対応が難しい時はシャワー浴や清拭で対応している。ご利用者に応じて、入浴を楽しむ時間が持てるように職員が浴室の外からの見守りを行ったり、入浴を好まず入浴時間が短いご利用者には、気持ち良く浴槽につかって頂けるように職員が声掛けを工夫する等の支援を行っている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯の提供も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のご利用者の生活歴を活かし、ホームに菜園を作ったり、貼り絵や川柳作り・習字に取り組む等個別の対応を行っている。職員とご利用者が一緒に活動する中でご利用者の得意なことを把握し、取り組める環境を整え支援している。また、テーブル拭き・下膳等を役割としてご利用者に取り組んで頂いている。天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、近隣のスーパーへの買い物外出も行って、外出することで気晴らしや気分転換の支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者が以前住んでいた地域への外出に職員が同行し介助したり、近隣のスーパーや馴染みの店へ買い物に出かけたり、以前からの主治医へ受診を続ける等、ご利用者の個々の希望に応じて外出支援を行っている。また、1年を掛けてホームでの県外一泊旅行を計画し、10月にご利用者全員と希望されたご家族が参加し実現できた。施設長・職員は今後定期的にホームでの一泊旅行を続けていきたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜8時から朝7時までは防犯上鍵をかけるが、日中は玄関や裏口の施錠は行っていない。一人で外出しようとするご利用者はおられるが、落ち着かれなくなれる時間帯や傾向をあらかじめ把握しており、時間帯に合わせて談話室でお茶をお出しし団らんを楽しむ時間を設けたり、ご利用者に応じて職員が同行して外出を行う等の対応を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価の後に、施設内の廊下へ避難経路図を設置し改善を図った。また、年に一回避難訓練を実施しており、地域の消防団に初期消火やご利用者の避難誘導等の協力を依頼している。現在は日中の災害を想定しての訓練のみ行っており、夜間の災害を想定した訓練は実施していない。備蓄については、食料・飲料・ラジオ付き懐中電灯・救急箱・電池等を緊急持ち出し袋に入れて準備しており、常に持ち出せるようにしている。	○	運営推進会議の中で、夜間を想定した避難訓練実施の提案があっており、施設長は今後夜間の災害を想定しての訓練にも取り組みたいと考えている。訓練の充実に向けて、今後の取り組みに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の希望を踏まえながら調理担当の職員が献立を考え、外部の管理栄養士が定期的に献立を確認し栄養面の助言を行っている。また主治医からの指導も受けており、偏食傾向があったり摂取量が少ないご利用者については経口栄養剤で補ったり、ご利用者の咀嚼・嚥下力に応じて食事形態を変える等の工夫もやっている。日々のご利用者の食事・水分摂取量を把握し、水分摂取は定時摂取の他、個々に応じて必要量が摂取できるように随時支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはご利用者全員が座れるソファが置いてあり、それぞれのご利用者がお気に入りの場所に座って団らんを楽しむ場が出来上がっており、心地よい空間を作り出している。建物全体は採光を取り入れ、職員とご利用者で作った作品やホームの行事の写真等がいたるところに飾られており、落ち着いた中にも暖かな雰囲気が感じられる。居室やトイレ・浴室は日に3回は職員が巡回確認し、清掃担当の職員がこまめに掃除することで清潔が保たれている。ご利用者にとって不快な音もなく、光の強さにも気配りがなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者がホームで居心地良く過ごして頂けるようにご利用者・ご家族と相談し、入居時に自宅で使用していた家具や使い慣れた物を持ってきて頂いている。ご利用者の中には長年愛用していた裁縫台を持ってこられた方もおられる。居室にはご家族の写真や絵等と合わせて、ご利用者の趣味の作品等が飾られている。入居時の持ち込みが少ない方には、職員と一緒に作った作品を飾り、ご利用者と職員で協力しながら居心地良く過ごせる環境作りに取り組んでいる。		